第２節　小串構内の立会調査

１　医学部臨床実験施設新営その他工事に伴う立会調査

調査地区　小串構内

調査期間　平成５年４月５日、同６月８日

調査方法　工事施工時における立会調査

調査面積　約9.0㎡

調査結果　工事は動物・RI実験棟の新営に伴い、既設の共同溝に接続する新営棟からの新たな共同溝を設置するものが１件と、動物・RI実験棟からの屋外配水管の布設が１件である。本調査地に関しては、平成２年度に本体の動物・RI実験棟部分で事前の試掘調査[1]が行われている。その調査結果から、本調査地に遺構・遺物が埋存する可能性は薄いと考えられた。このことにより、調査方法は工事施工時における立会調査とした。

４月５日に共同溝の掘削に伴う立会調査を行った。現地表面から約2.1ｍ下位まで、構内造成等による埋め土が厚く客土されている。埋め土の直下には、第２層：青灰色粘質土（5BG　5／1）が堆積する。層の厚さは約50㎝である。その下には、貝殻を含んだ第３層：青灰色粘砂（5BG　5／1）が堆積する。青灰色粘砂を50㎝ほど掘削したが湧水が激しく、調査を中止した。現地表面の2.0ｍよりも下位に青灰色粘質土が検出されたことは、動物・RI実験棟の調査結果とも一致する。この青灰色粘質土には遺物が含まれておらず、本調査地周辺部は遺構・遺物が希薄な地域と考えられる。

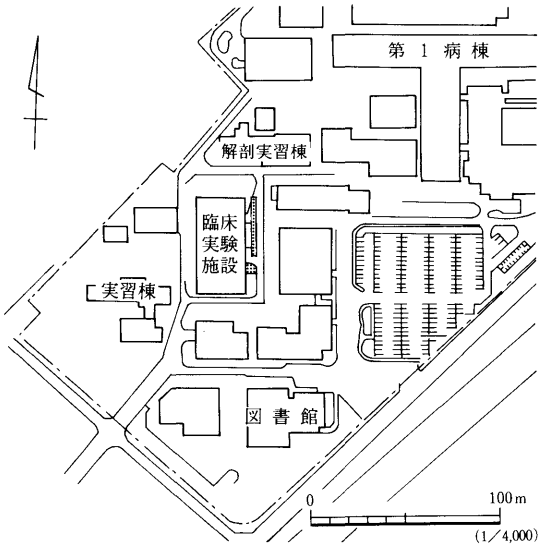

Fig. 46　調査区位置図

６月８日に行われた屋外配水管の布設に伴う立会調査では、掘削深度が約30㎝と浅く、埋め土の範囲内であった。

［注］

１）山口大学埋蔵文化財資料館「小串構内医学部附属病院動物・RI実験棟新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報』Ⅹ、1992年）

2　医学部附属病院基幹整備（焼却棟新営その他工事）に伴う立会調査

調査地区　小串構内

調査期間　平成５年４月９日

調査方法　工事施工時における立会調査

調査面積　約6.0m²

調査結果　工事は既設の焼却棟を解体し、新たに焼却棟を建設するものである。新営予定地は平成４年度にボーリング調査[1)]が行われており、そのデーターにより地表から深さ２～４ｍの範囲は造成土であることが判明していた。また、既設の焼却棟により、地下が撹乱を受けていると想定されたため、埋蔵文化財資料館は既設焼却棟撤去後の新設棟工事施工時に立会調査を行うこととした。

新設棟の基礎が及ぶ地表下2.0mはボーリング調査のデーター通り、構内造成等による埋め土が厚く客土されていた。また、2.0mより下位からは湧水が激しく、それより下位の土層を確認することは不可能であった。今回の工事では埋蔵文化財への支障はなかったが、本調査地より12.0m西側で昭和61年度に雨水桝の取設に伴い立会調査[2)]を行い、地表下80cmで未撹乱の青黄橙色粘質土層が確認されている。遺構・遺物は未検出であるが、掘削規模が小さくその有無について正確な判断は成しえていない。本調査地は昭和61年度の調査地よりも真締川に近く、青黄橙色粘質土層がより深い位置で検出される可能性がある。本調査地周辺で地下の破壊が2.0m以上に及ぶ場合には、排水処理を伴った調査を行う必要がある。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「焼却棟地盤調査に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報』Ⅻ、1994年）

2）山口大学埋蔵文化財資料館「医学部附属病院外来診療棟周辺環境整備等に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報』Ⅵ、1987年）

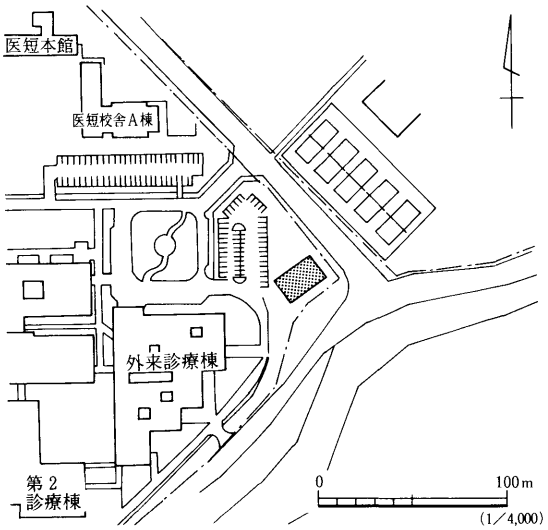

Fig. 47　調査区位置図